



# 若竹だよい



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう  
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八カ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

## 【巻頭言】

### 夏休み

#### 園長 宮竹 恒

暑中お見舞い申し上げます。長い梅雨が明け、夏の暑さが厳しくなると同時に子どもたちは夏休みを迎えました。

7月20日終業式、校長先生のお話を静かにしっかり聴いている子どもたちの姿を見て、1学期間の一人一人の成長を感じました。

今年は、2学期の始業式が9月1日になり、例年に比べ、長い夏休みとなります。

この長い夏休みをどう過ごすかが子どもたちにとって、とても大切になります。中学3年生にとっては、進路を決める大切な夏休みになるかもしれません。宿題を最後までやりきることが成長につながる子どももいれば、しっかり外で遊んで体力をつけることが成長につながる子どももいます。

終業式の日子どもたちに「小さなことを積み重ねていくこと」「関心を持って過ごすこと」の大切さについて伝えました。



そのきっかけになったのは、埼玉県の小学6年生の夏休みの自由研究が大学講師の先生と共同で論文を発表するに至ったことを知ったことでした。彼はカブトムシがシマネトリコという樹に昼間に集まっていることに興味を持ち、毎日、細かく観察を続けました。その結果、夜行性と言われるカブトムシが昼間も活動していることを発見しました。

彼の発見は、普段見過ごしていることに関心を持つことで大きな発見があり、更にコツコツと積み重ねることが偉大な成果につながることを教えてくれています。



そして、彼の発見の素晴らしさに気づき、共同論文という形を作られた講師の先生の姿にも感じるものがありました。子どもの発想に関心を持ち、子どもの素晴らしさに気付くことの大切さを学ばせて頂きました。

子どもたちが何に興味や関心を持って取り組むかは、個性の違いもあり未知なところはありますが夏休みが大きなチャンスであることは確かです。



7月27日と8月10日に全員で海水浴に行きました。



海の中では、子どもたち同士で一緒に泳いだり、水鉄砲で水をかけ合ったりして遊んでいました。職員にサポートしてもらいながら、1人では行けない深さのところまで挑戦している子どももいました。上手く泳ぐことが出来ずに困っている子どもに「こうやって泳いだら前に進むよ。」や、「足元危ないから気をつけなよ。」などと優しい声掛けも聞こえてきました。

また、自分好みの石やガラスをととても楽しそうに拾い集めている子どもたちの姿が印象的でした。海辺でイカやカニなどの生き物を発見して見せてくれた子どももいました。

子どもたち一人一人が様々な楽しみ方で海水浴を楽しむ様子が見られました。普段の学園で生活している様子とは少し違った一面を見ることが出来ました。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、今年の夏もみんなが海水浴に行けてよかったです。また1つ子どもたちとの思い出が増えました。



## 若竹セルフうどん

8月20日、昼食をセルフうどんの様式にしました。新型コロナウイルスの影響で、なかなか外食に行けない日々が続いている為、少しでも外食の気分を味わえるように、と工夫しました。



子どもたちはメニューを見ながら自分たちでうどんの種類を選んだり、



天ぷらやおにぎりを取ったりすることで、普段とは一味違った雰囲気を楽しんでいました。

子どもたちからは、「お腹いっぱい！美味しかった。」

「天ぷらとおにぎりおかわりしよう。」などと、たくさんの嬉しそうな声が聞こえてきました。





## カード大会

子どもからの要望もあり、8月14日にカード大会を行いました。今回で3回目となり恒例の行事になりました。子どもの中には7月から大会への準備をしていたと話す子どももおり準備万端です。



今年度から始めて、トーナメントを2種類行い、それぞれの優勝者を決めました。賞品には、子どもたちが欲しいカードパックにしました。プレッシャーになったのか参加していた子どもはやや緊張はしていましたが、やる気十分でした。



大会が始まると、静かな空気の中で、各々のテーブルで熱いバトルが繰り広げられていました。トーナメントは小学低学年から中学3年生まで入り混じって行いましたが、優勝したのはなんと小学6年生の男の子でした。自分が優勝した事を信じられないのか、最初はこわばった表情でしたが、時間が経つにつれ実感がわいてきたのか、笑顔になっていました。

## ゲーム大会

ゲーム大会の当初は、以前から子どもから希望があった任天堂スイッチのスマッシュブラザーズのソフトを活用し、8人プレイでの対戦を計画しました。前日に練習会を行い、子どもにアンケートを実施すると、『8人でやると対戦場が狭く、ステージからすぐに落下し、戦いで勝負が決するまえにゲームオーバーになる』『1対1のトーナメント形式もしたい』という意見が多くありました。

そこで8人から4人に変更しました。1対1にすると、自分がプレイしない時間が増え待てない子どもが出てこないかと心配になり子どもたちに相談しました。相談した結果、子どもたちがふれあい（各リビング）で個人ゲームをするか、スマッシュブラザーズのゲーム大会に参加するか、どちらかを選択できるようにしました。

その結果、ほとんどの子どもが、ゲーム大会、個人ゲームそれぞれの場で楽しむことができました。決められた時間を守って、片付けもでき、ゲーム大会を楽しむことができました。

## 大会を終えて

カード・ゲーム大会を終えて、思いだしたのは、今年のオリンピック選手、特にスケボアの選手達たちのことでした。ライバルたちの大技の成功を喜ぶ姿、ライバルのチャレンジを賞賛する姿、参加選手全員がお互いを讃え合い、ライバルのパフォーマンスを、みんなで盛り上げ作り上げようとするフェアな振舞いに感動しました。

子どもたちにも、大会をする中、または日常生活でもお互いに認めあえるよう支援していきたいと思いました。



8月20日全員で古本先生の動作法の講義を受講しました。

子どもたちは、古本先生の講義を真剣な表情で聞いており、ストレスがどのように起きるのか、自分の捉え方次第でストレス反応が起きにくくなることを学んでいました。



動作法の実演は、初めに1人で次にペアで肩の上げ下げを行いました。



すると多くの子どもたちが、ペアでやる方がリラックスしやすいと話していました。

今後、これを機に動作法に参加してくれる子どもたちが増えるといいなと思いました。

## 8月行事

10日	海水浴
13日	ゲーム大会
14日	カード大会
18日、19日	誕生日ケーキ作り
23日	防火訓練
31日	夏祭り

### 在籍人数

令和3年9月1日現在

区分	県内(人)	県外(人)	合計(人)
小学生	4	4	8
中学生	14	1	15
合計	18	5	23

ご寄付ありがとうございます。

藤間 勘雅 智枝 様  
寒川 かおり 様

お菓子 沢山  
ジュース 沢山

### 編集後記

今月は夏休みが始まり、学園で過ごす時間が増えました。新型コロナウイルスの影響で、なかなか外出が出来ず、学園内で出来ることを考えながら日々を過ごしています。少しでも楽しい思い出が増えるように工夫していきたいです。

大室

### 第329発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール [wakatake@4on.or.jp](mailto:wakatake@4on.or.jp)

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒

